

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日:

事業所名: 児童発達支援 児童発達支援・放課後等デイサービスでほこ

対象人数(保護者)7人 回答者数 3人 回収 42.9%

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	① こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3					
	② 職員の配置数は適切であると思いますか。	3				先生方は多いと思います。安心して預けています。	
	③ 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3					
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	3					

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
適切な 支援の 提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に 応じた専門性のある支援が 受けられていると思いますか。	3				子供のことを考えてどうしたら いいか色々な提案をしてくださ います。また、子供達に愛情を 持って接してくれているのが 伝わってきます。	
	⑥	事業所が公表している支援 プログラム(※2)は、事業所の 提供する支援内容と合ってい ると思いますか。	3					
	⑦	こどものことを十分に理解し、 こどもと保護者のニーズや課題 が客観的に分析された上で、 児童発達支援計画(個別支援計 画)(※3)が作成されていると 思いますか。	3					
	⑧	児童発達支援計画には、児童 発達支援ガイドラインの「児童 発達支援の提供すべき支援」 の「本人支援」、「家族支援」、 「移行支援」で示す支援内容 からこどもの支援に必要な項 目が適切に設定され、その上 で、具体的な支援内容が設定 されていると思いますか。	3					
	⑨	児童発達支援計画に沿った支 援が行われていると思います か。	3					
	⑩	事業所の活動プログラム(※4) が固定化されないよう工夫さ れていると思いますか。	3				2、3回映画鑑賞が続いた時 は疑問でした。	ご意見ありがとうございます。 何するの活動なども含め、や りたいこと、狙いなど含め再 度職員で意見交換を行います。
	⑪	保育所や認定こども園、幼 稚園等との交流や、その他地 域で他のこどもと活動する機 会がありますか。	1	1	1			

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑫ 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3				いつも丁寧に説明していただきます。安心しています。	
	⑬ 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3					
	⑭ 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2			1		
	⑮ 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	3					
	⑯ 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3					
	⑰ 事業所の職員から共感的に支援がされていると思いますか。	3					
	⑱ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3					
	⑲ こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3					
	⑳ こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3					
	㉑ 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	3					
㉒ 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2		1			歩道側の窓から事業所のなかが見えるのが気になります。	ご意見ありがとうございます。一部目隠しシートを張りましたが、地域に開かれた事業所でありたい想いもあり検討を引き続き行っていきます。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の 対応	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2	1				
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1	1	1			
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3					
	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3					
満足度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	3					
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	3					
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	3					

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
でこぼこについて	⑩ 今後も継続利用を希望するか でこぼこを選び通所 続けてくれる理由が あれば教えてください。	3				たくさんの体験をさせていただき、将来まだどうなるかわかりませんがでこぼこぼてとさんや、でこぼこぶらすさんなどあることで息子の成長と共に長い目で見て相談しやすいと思いました。	
	⑪ 就学後お泊り会に参加する予定はあるか お泊り会 について疑問、不安 などがあれば教えてください。	3					
	⑫ 現在の活動内容に満足しているか 気に入って る活動内容があれば 理由も一緒に教えて ください。また、こん な活動してほしい! などもご記入ください。	3				何する?です。最近はやりたいことが沢山あるようで家庭では大変なこともしかくで経験できて、とてもありがたいです。	
	⑬ 職員の雰囲気は良いか、職員間の連携が取れているように感じるか 職員の雰囲気 について思うところ があればお知らせください。	3				先生方みんな元気で心が優しいと感じます。一生懸命子供のことを考えて支援してくださるのが伝わります。	
	⑭ 連絡事項に不備はないか 連絡事項 (日々のライン)につ いて(もっと早く教え てほしい、こんなこと が知りたい等)意見 がありましたらお知らせ ください。	3					
	⑮ HUGの使い方に困り感はないか HUGの記録 について(読むのが 大変or楽しい、写真 について)意見があ りましたらお知らせ ください	3				活動内容のみの記録の時が気になります。本人がどんな行動をとって、支援者は何を考えどんな支援をしたのかが気になる時があります。	ご意見ありがとうございます。仰る通り、本人の育ちの記録であり、活動内容の報告ではないので記録の記載について職員で認識を確認していきます。
	⑯ 実費負担額は適切か 基本的には かかった金額、高い ようであれば、1/2 で調整しています。活 動の量が多いので金 額の調整ではなく活 動量の調整の目安 のためにお伺いま す。	3					
	⑰ 土曜日の活動を希望するか、活動を選ぶときに重視している部分などはあるか	2	1				
	⑱ 将来的にでこぼこぶらすを利用する希望はあるか	3				息子の成長の様子を見て必要であればぜひ利用したいです。	
	⑲ 保護者茶話会について開催を希望するか 取り 扱ってほしい内容 などはあるか	3					

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、子ども本人がこの部屋で何をするのがわかりやすい、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「児童発達支援計画(個別支援計画)」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想

定されています。

※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。